



2007年度中間決算説明会

2007年11月6日

積水化成品工業株式会社
証券コード(4228)

2007年度連結中間決算要約

単位: 百万円

	2006中間 実績	2007中間		前年 同期比	計画比
		計画	実績		
売上高	45,639	48,500	48,446	+6.1%	0.1%
営業利益	1,233	1,430	1,029	16.5%	28.0%
経常利益	1,117	1,330	914	18.2%	31.3%
中間純利益	666	750	493	26.0%	34.3%

売上高は、汎用製品数量未達も、単価アップと海外子会社好調でほぼ計画通り
営業利益は、汎用製品及び国内子会社において原料価格高騰の価格転嫁が遅れたため、前年同期比、計画比とも未達成

セグメント別業績概要

単位:百万円

		2006中間 実績	2007中間		前年 同期比	計画比
			計画	実績		
樹脂事業	売上高	17,878	19,700	20,053	+12.2%	+1.8%
	営業利益	645	750	671	+4.0%	10.5%
シート事業	売上高	20,875	21,900	21,263	+1.9%	2.9%
	営業利益	717	690	496	30.9%	28.1%
建材事業	売上高	4,552	4,700	4,792	+5.3%	+2.0%
	営業利益	173	30	145	-	-
その他事業	売上高	2,333	2,200	2,337	+0.2%	+6.2%
	営業利益	48	20	5	87.7%	70.3%

2007年度より全社費用配賦額を変更しています。

【セグメント別営業利益】

樹脂事業は、汎用製品価格転嫁遅れも、高機能発泡製品の海外好調で前年同期上回る

シート事業は、食品トレー向けの販売数量・価格転嫁苦戦と子会社不振で減益

建材事業は、土木資材好調も、建築資材が販売数量・価格転嫁苦戦で改善進まず

2007年度修正計画概要

単位: 百万円

	2006年度 実績			2007年度 当初計画			2007年度 修正計画		
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	45,639	49,257	94,896	48,500	51,000	99,500	48,446	51,054	99,500
営業利益	1,233	1,941	3,174	1,430	2,300	3,730	1,029	2,281	3,310
経常利益	1,117	1,807	2,924	1,330	2,200	3,530	914	2,136	3,050
当期純利益	666	1,202	1,868	720	1,280	2,030	493	1,177	1,670

下期計画は当初計画を概ね据え置き、通期では対前年度増収増益を確保

2007年度セグメント別修正計画

単位:百万円

		2006年度			2007年度		
		上期	下期	合計	上期	下期	合計
樹脂事業	売上高	17,878	19,701	37,579	20,053	21,047	41,100
	営業利益	645	1,083	1,728	671	1,159	1,830
シート事業	売上高	20,875	21,714	42,589	21,263	22,437	43,700
	営業利益	717	833	1,550	496	954	1,450
建材事業	売上高	4,552	5,440	9,992	4,792	5,208	10,000
	営業利益	173	29	202	145	115	30
その他事業	売上高	2,333	2,401	4,734	2,337	2,363	4,700
	営業利益	48	51	99	5	55	60

2007年度より全社費用配賦額を変更しています。

樹脂事業は、汎用製品価格転嫁浸透と高機能製品伸長で、下期も増収増益
 シート事業は、価格転嫁浸透も、上期のマイナスが大きく通期で減益
 建材事業は、構造改革推進で赤字縮小

中期経営計画

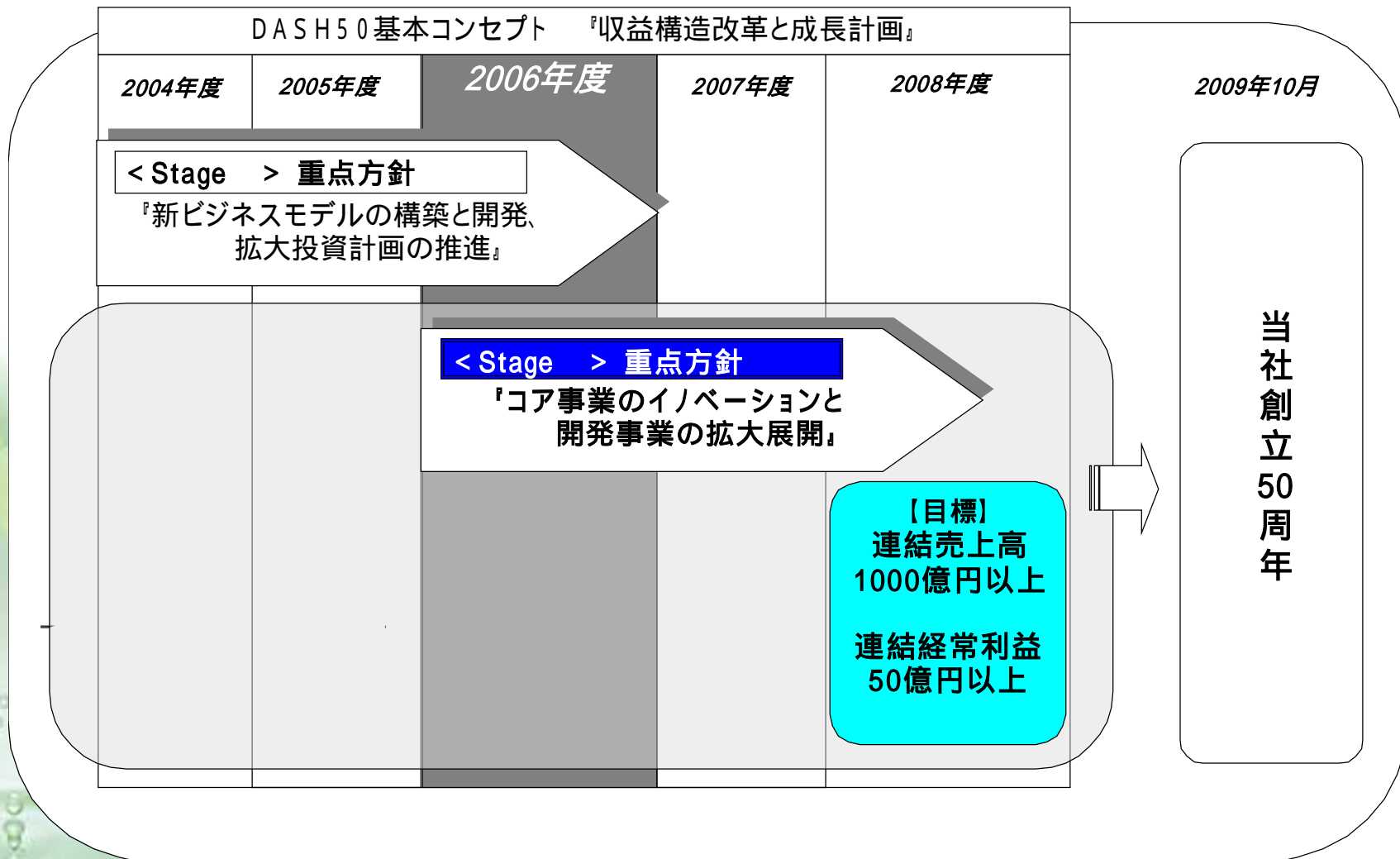
「DASH50 Stage」

(2006～2008年度)

進捗状況



【DASH50 Stage】基本コンセプト



【DASH50 Stage】重点課題

DASH 50 Stage

<コンセプト> 収益構造改革と成長計画

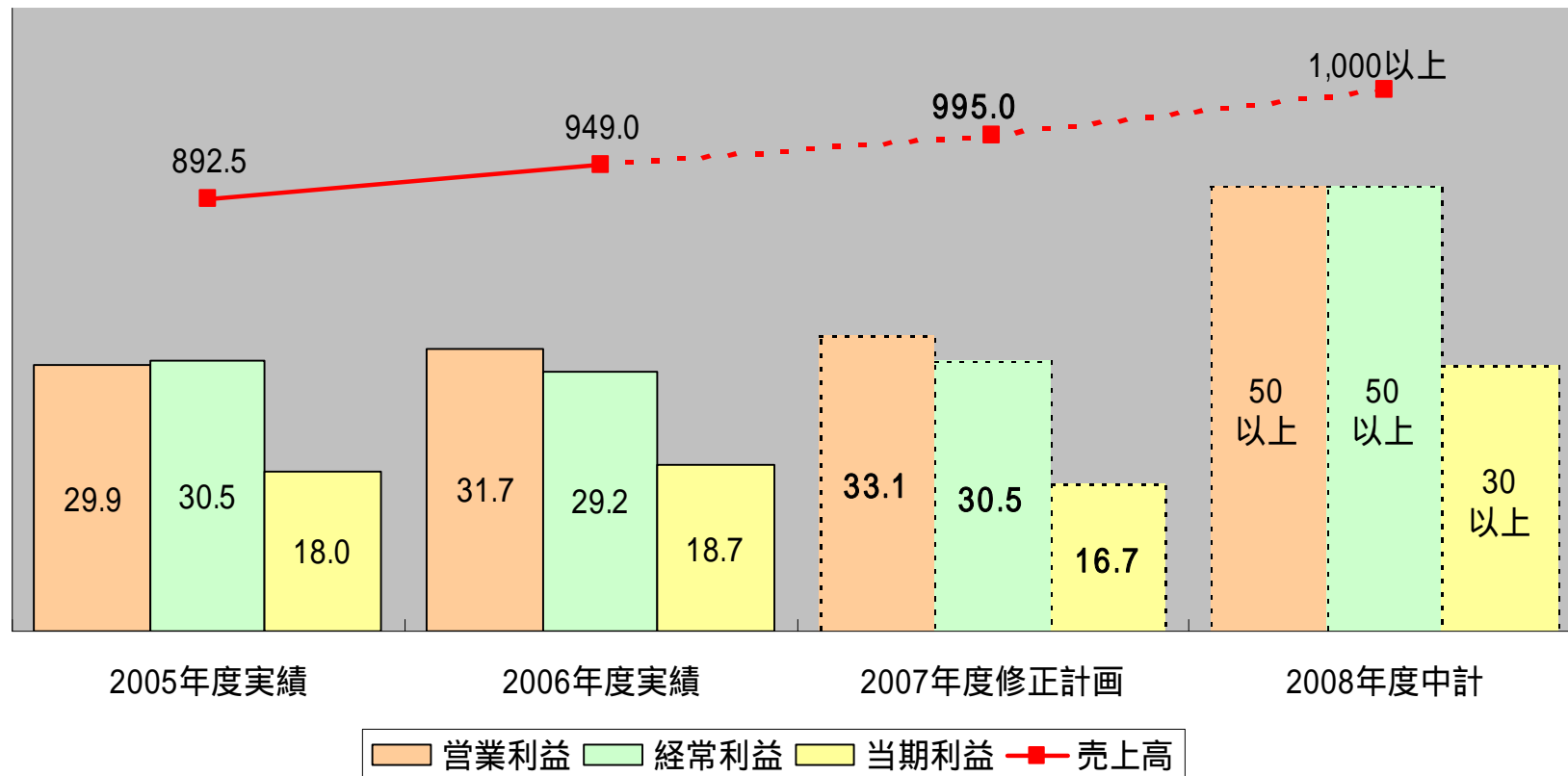
～コア事業のイノベーションと開発事業の拡大展開～

【重点課題】

1. 発泡プラスチック事業のイノベーション
既存事業の事業力強化
高機能発泡材料の事業拡大
環境対応事業の拡大
2. 高機能材料事業の拡大
テクポリマー・テクノゲルの事業拡大
3. 新事業の育成と立ち上げ

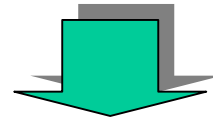
【DASH50 Stage】収益計画

単位：億円



【DASH50 Stage】2007年度下期の重点施策

2008年度収益目標達成に向けた施策の完遂



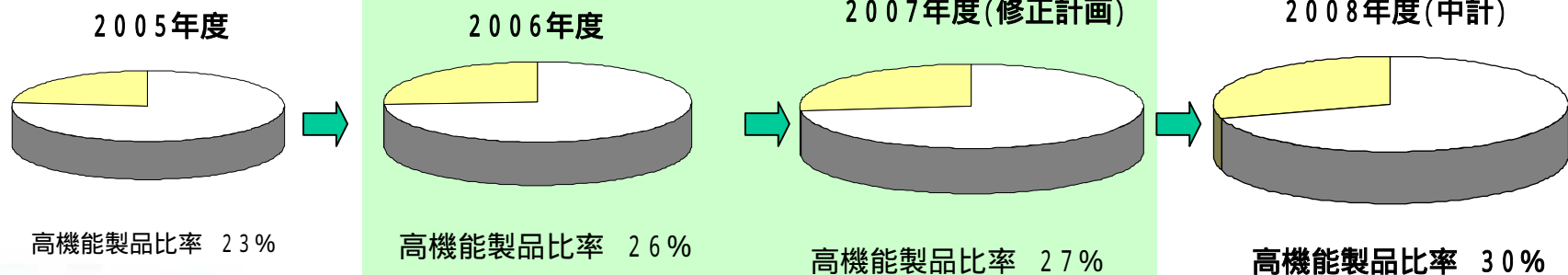
- ・高機能発泡製品のグローバル体制確立と生産プロセス革新
- ・高機能材料の成長分野積極拡販と新規分野展開
- ・環境対応事業の新用途開発による拡大
- ・生産部門のコスト競争力強化、現場力強化
- ・事業の「選択と集中」取り組み加速
- ・研究開発テーマの事業化推進

【DASH50 Stage】 事業ポートフォリオ変革

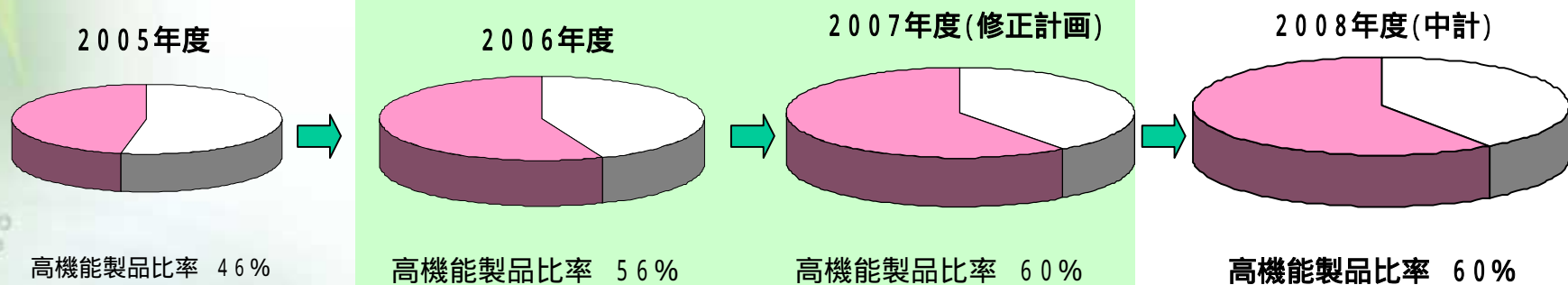
高機能製品の成長による事業ポートフォリオ変革

...成長市場と海外拡販で高機能製品の比率向上

売上高



営業利益

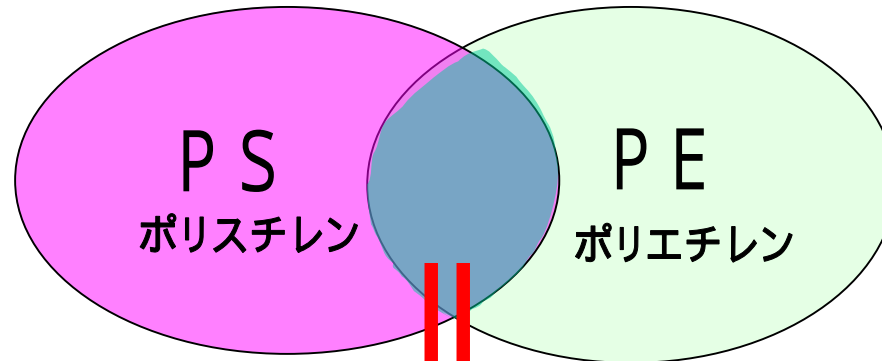


【DASH50 Stage】高機能発泡製品の事業拡大

ピオセラン

...ポリスチレンとポリエチレンを組み合わせた当社独自の複合樹脂発泡品

剛性に優れる
高発泡化しやすい
断熱性に優れる



耐衝撃性に優れる
耐薬品性に優れる
耐磨耗性に優れる

当社の成形・加工技術

車体軽量化

搭乗者保護

自動車部材

機器大型化
・精密化

グローバル輸送

デジタル家電緩衝材

【DASH50 Stage】高機能発泡製品の事業拡大



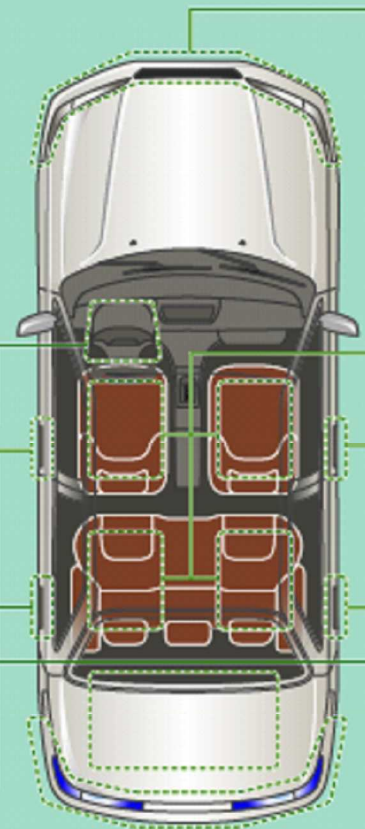
自動車部材



下肢部衝撃吸収材



ドアパッド



バンパーコア



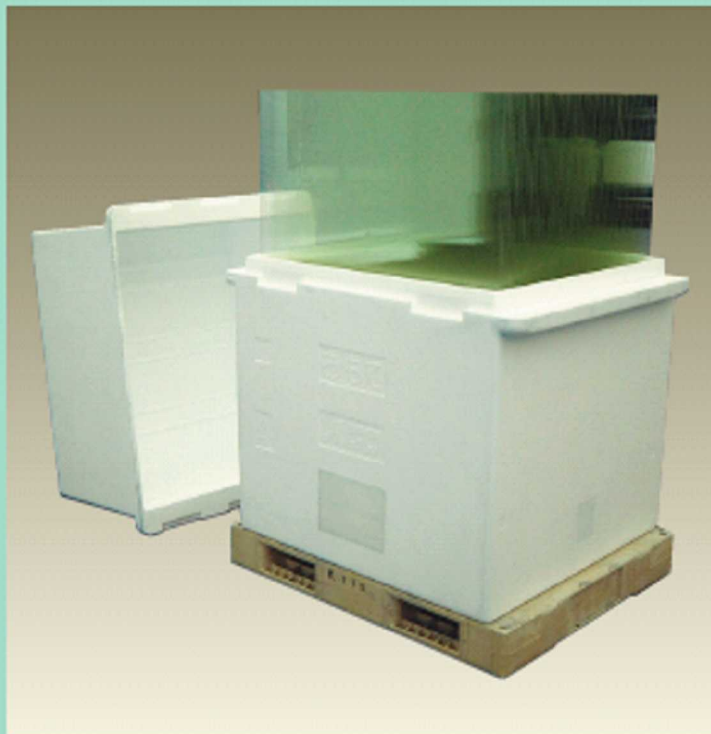
嵩上げ材



【DASH50 Stage】高機能発泡製品の事業拡大



デジタル家電等梱包・緩衝材



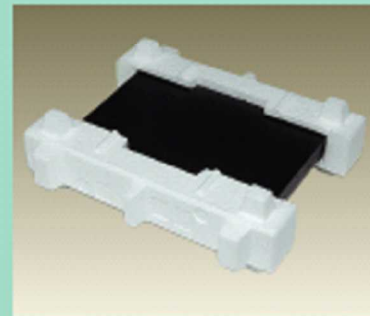
薄型TV大型ガラス搬送容器



薄型TV完成品梱包



液晶セル搬送容器



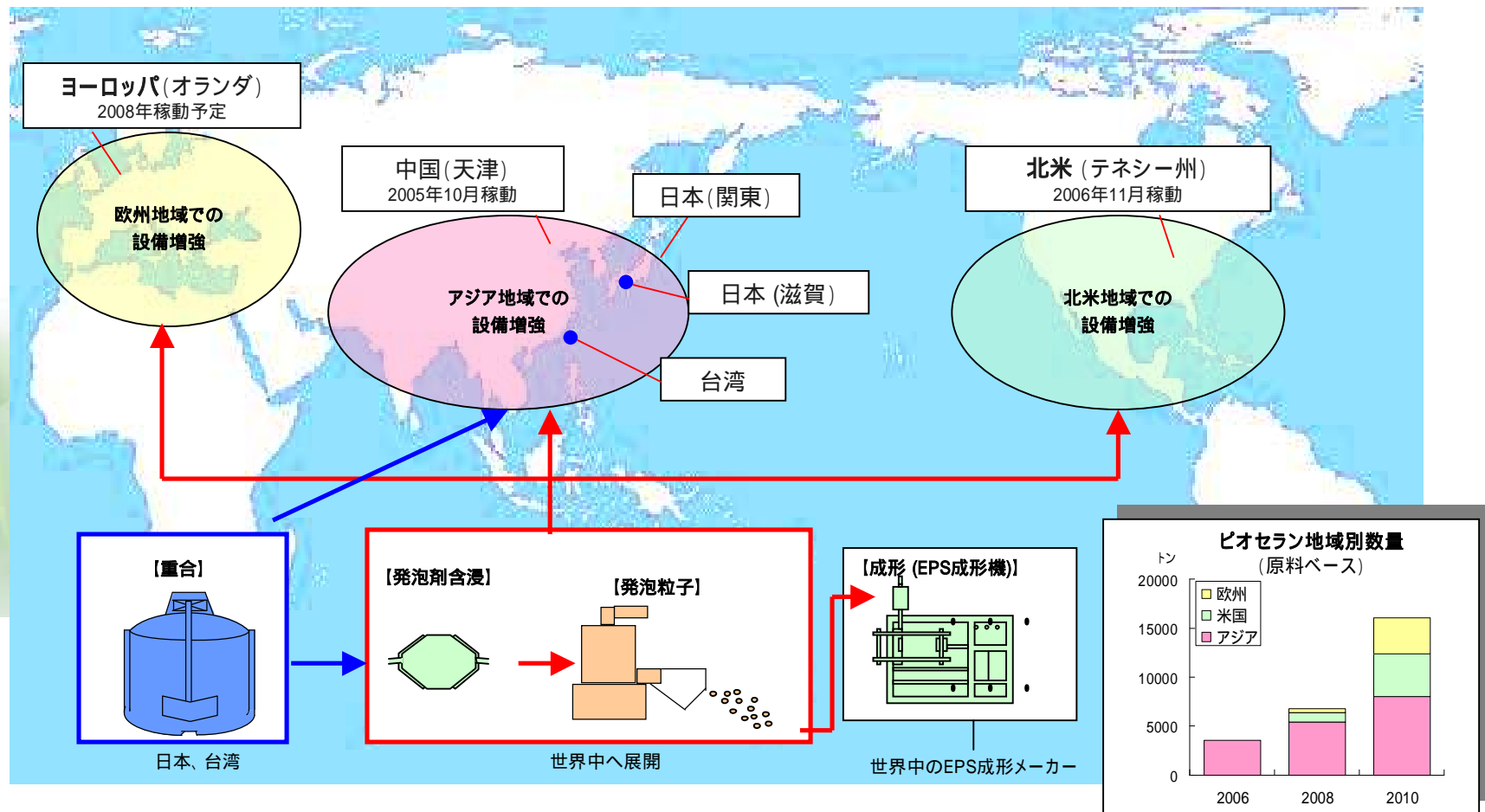
ノートパソコン緩衝梱包



自動車部品緩衝梱包

【DASH50 Stage】高機能発泡製品の事業拡大

ピオセラン供給拠点の構築を加速 (2010年度 年産1万6千トン体制目指す 自動車・IT関連メーカー)

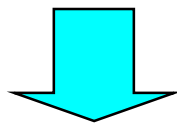


【DASH50 Stage】高機能発泡製品の事業拡大

【2007年度上期の成果】

自動車部材は新車・モデルチェンジ車種への採用で順調に売上増加

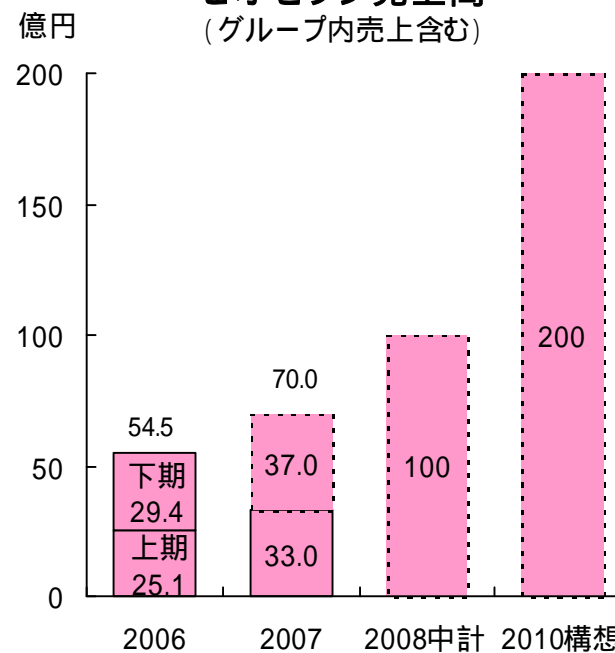
大型ガラス容器は海外向け遅れも、液晶セル搬送容器が国内向けで順調に拡大



【2007年度下期の取り組み】

需要に対応したグローバル生産販売体制の早期構築（韓国販売会社設立、中国（華東）生産会社設立検討）

ピオセラン売上高
(グループ内売上含む)



【DASH50 Stage】高機能材料の事業拡大

テクポリマー

当社独自の重合技術から生まれた有機微粒子ポリマー



塗料用途 (艶消し効果)

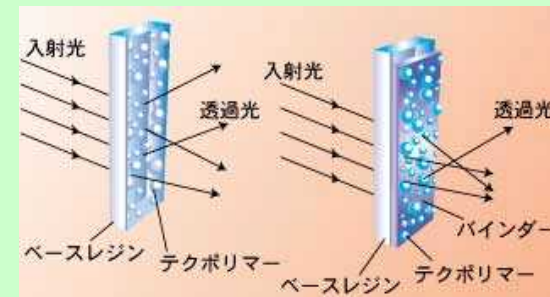


化粧品用途 (しわ隠し、滑り性、触感改良)



光拡散用途

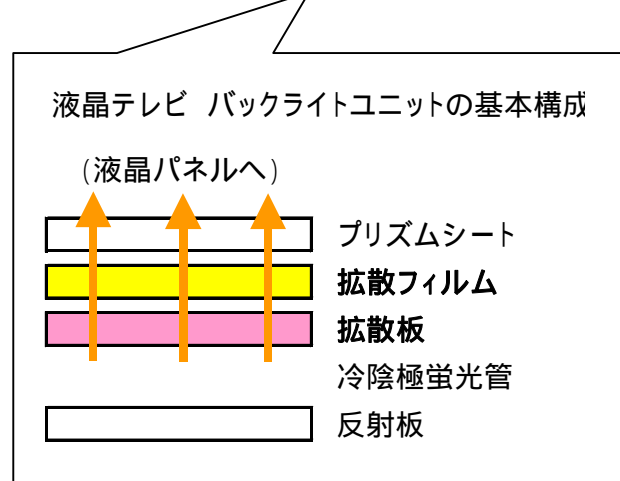
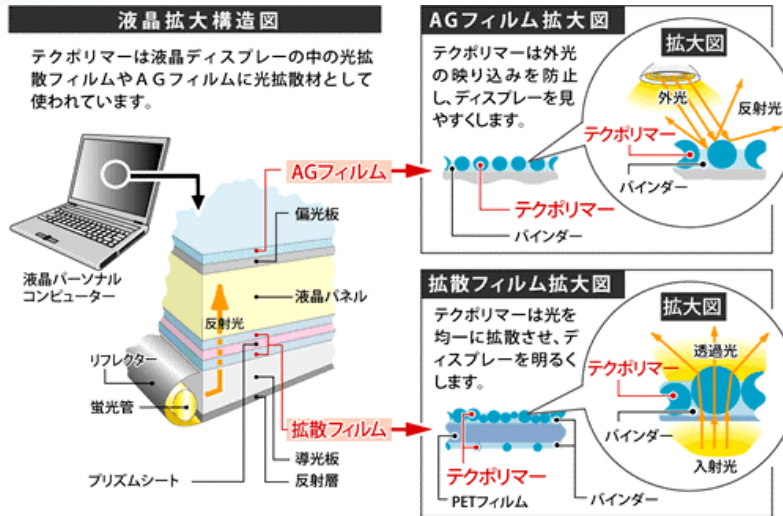
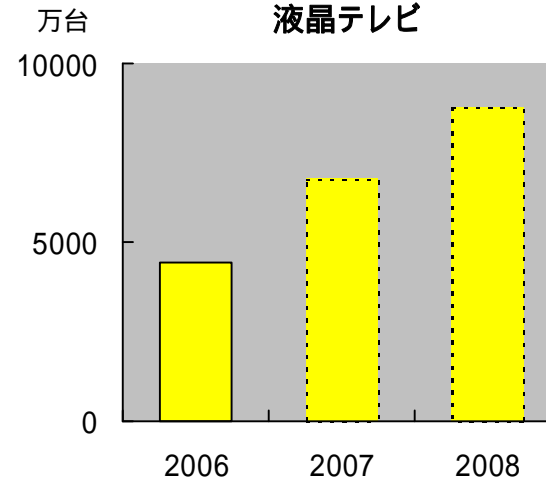
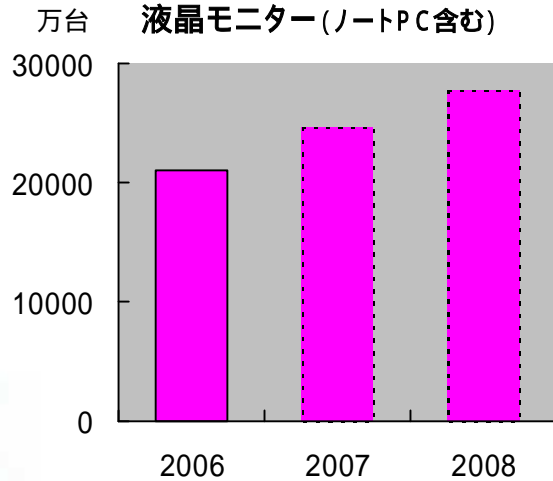
パソコンやテレビの液晶ディスプレイ、リアプロジェクションテレビのスクリーンに使用。球状粒子の持つ、均一な光拡散効果でディスプレイ全体を明るくしたり、ディスプレイを見やすくしたりするのに役立っています。



【DASH50 Stage】高機能材料の事業拡大

世界市場環境予測

出所:各種資料より当社推定



【DASH50 Stage】高機能材料の事業拡大

【2007年度上期の成果】

液晶向けは4 - 6月期は業界在庫調整の影響受けるも、7 - 9月期は需要回復し、中間期では売上増

リアプロ向けは需要減退で減少、光拡散用途以外は新規顧客増加



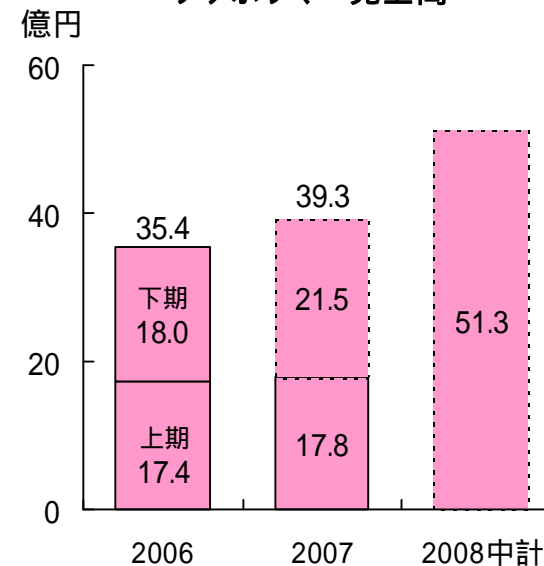
【2007年度下期の取り組み】

液晶分野の市場拡大に対応したグローバル拡販

新規分野の開拓と実績化

(各種新規ディスプレイに対する微粒子開発)
量産技術向上、生産性向上、コストダウン推進

テクポリマー売上高



【DASH50 Stage】その他重点製品の事業拡大

テクノゲル

当社独自技術による導電性ハイドロゲル

【2007年度上期の成果】

化粧パック・ゲルシートが計画未達で売上前年並み

【2007年度下期の取り組み】

新規分野の開拓と実績化(静電気除去、防蝕用途)
事業拡大に向けた提携等の実施



エプスレム

廃家電樹脂等を利用したリサイクルビーズ

【2007年度上期の成果】

シャープの大型液晶テレビ梱包材が引き続き順調

【2007年度下期の取り組み】

新規顧客の開拓促進(冷蔵庫・エアコン・パソコン等)
日系家電メーカーの海外拠点への対応検討



【DASH50 Stage】既存事業の競争力強化

事業環境に左右されない収益構造の確立

- ・原燃料価格上昇に対する製品価格への的確な対応
- ・生産部門のコスト競争力強化

【樹脂事業】

- ・子会社のコスト競争力強化
(省エネ成形・現場力強化)
- ・地域別戦略の推進
事業譲受によりセキホー広島を設立

【シート事業】

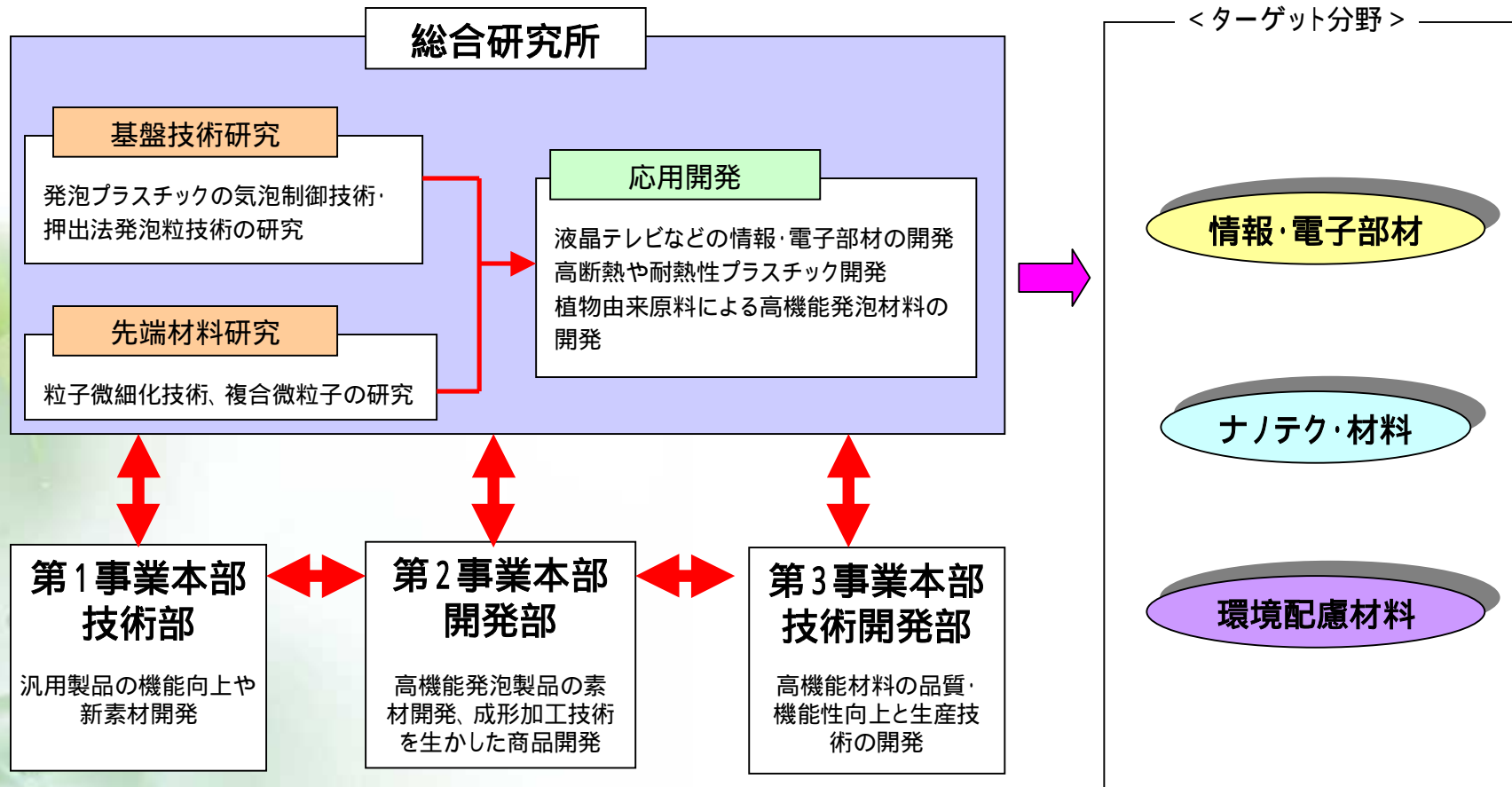
- ・ラミネート品・子会社の抜本的採算改善
- ・納豆容器拡販の取り組み

【建材事業】

- ・抜本的事業構造改革の推進

【DASH50 Stage】新事業の育成と立ち上げ

ポストDASH - 50に向けた新事業の育成と立ち上げ
 全社横断的な研究開発体制による新事業の具現化
 総合研究所の体制強化による新製品の早期上市



【DASH50 Stage】新事業の育成と立ち上げ

環境配慮材料

植物由来原料を用いた発泡体

ポリ乳酸樹脂 (PLA)

トウモロコシなどの植物から製造される樹脂

カーボンニュートラル性を有する環境負荷が低い材料

カーボンニュートラル性とは、炭酸ガスの増減に影響を与えない性質のこと

【PLAの特性】

...環境適性・耐溶剤性・耐候性

× ...耐熱性(通常60)

加熱寸法安定性が低く、ビーズ法発泡体として実用化困難

加熱寸法安定性を高めるためには結晶化度を高める必要がある

結晶化度を高めると成型加工が困難

当社独自開発の製造プロセスにより、結晶化度を成型加工中に低く抑制し、最終製品では結晶化度を高くする技術を開発

世界で初めて150 の加熱寸法安定性を有するビーズ法PLA発泡体を開発



【DASH50 Stage】新事業の育成と立ち上げ

【今回開発品の特長】

加熱寸法安定性に優れる: EPSやEPPより優れた加熱寸法安定性(右図)

耐油性・耐候性に優れる: PLAが本来持つ特性を保持

着色が容易: 鮮やかなカラービーズが得られる、成形品へのペイント処理も容易

VOCが発生しない

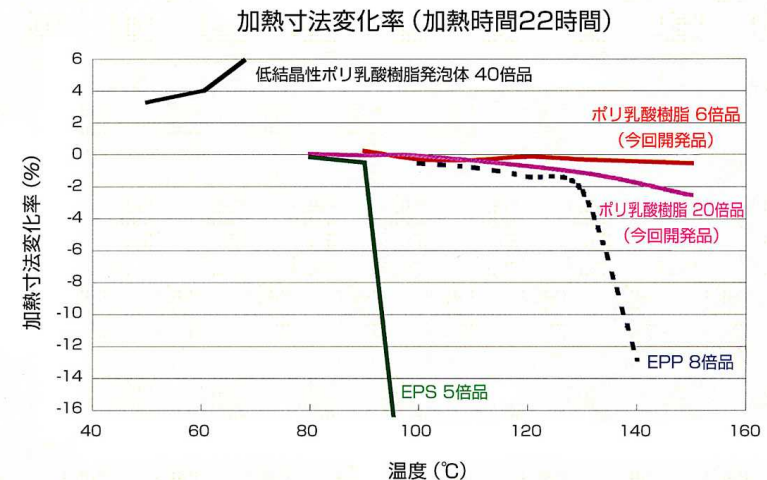


【用途展開】

輸送機器関連(自動車部材等)、建築資材関連(化粧型枠等)、工業用部材関連(高温用断熱材等)、食品包材関連(贈答用意匠箱)、レジャー関連(ヘルメット芯材等)、玩具(積木、教育資材等)

現有のパイロットプラント(生産能力120トン/年)で市場開発

新規プラント(生産能力600トン/年)の導入検討



【DASH50 Stage】新事業の育成と立ち上げ

情報・電子部材

光学用反射板

当社の高機能樹脂発泡シートをさらに進化させ、光学用途に対応

< 素材 > 発泡層を有する無延伸PP系積層シート



【特長】

高反射率: 全反射率98%以上(うち98%以上が拡散成分) 光ムラの低減に貢献

高剛性: 高いハンドリング性を有する 組み立て時の施工性向上に貢献

熱成形性: 熱成形により形状付与が可能



【DASH50 Stage】新事業の育成と立ち上げ

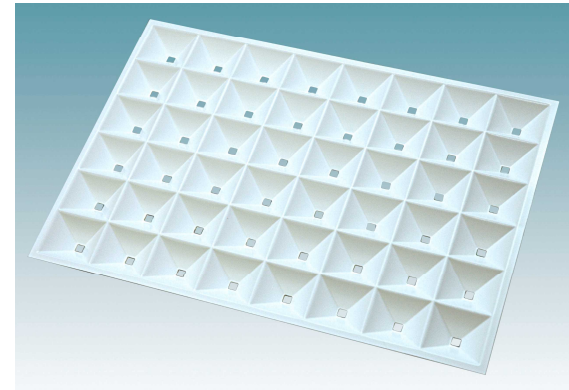
【熱成形のメリット】

バックライトユニットや光源に合わせた光学設計の自由度が向上
適切な成形により光源の反射効率をアップさせることが可能(明るさアップ・光源数低減・光ムラの低減)
成形により設置剛性がアップ



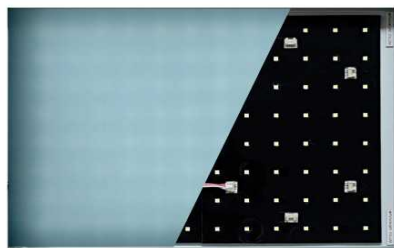
【用途】

大型液晶テレビ用バックライト反射板
電飾看板、大型スクリーン用バックライト反射板 等



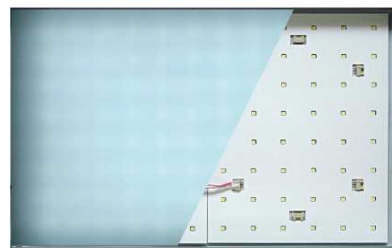
輝度比較例...LED光源による輝度・輝度ムラの向上事例

反射板なし



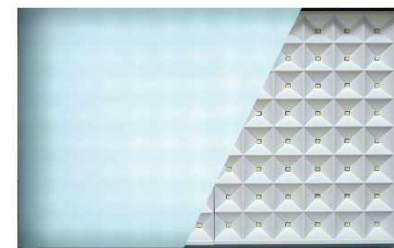
932cd/m²

反射板あり



1,494cd/m²

成形反射板あり

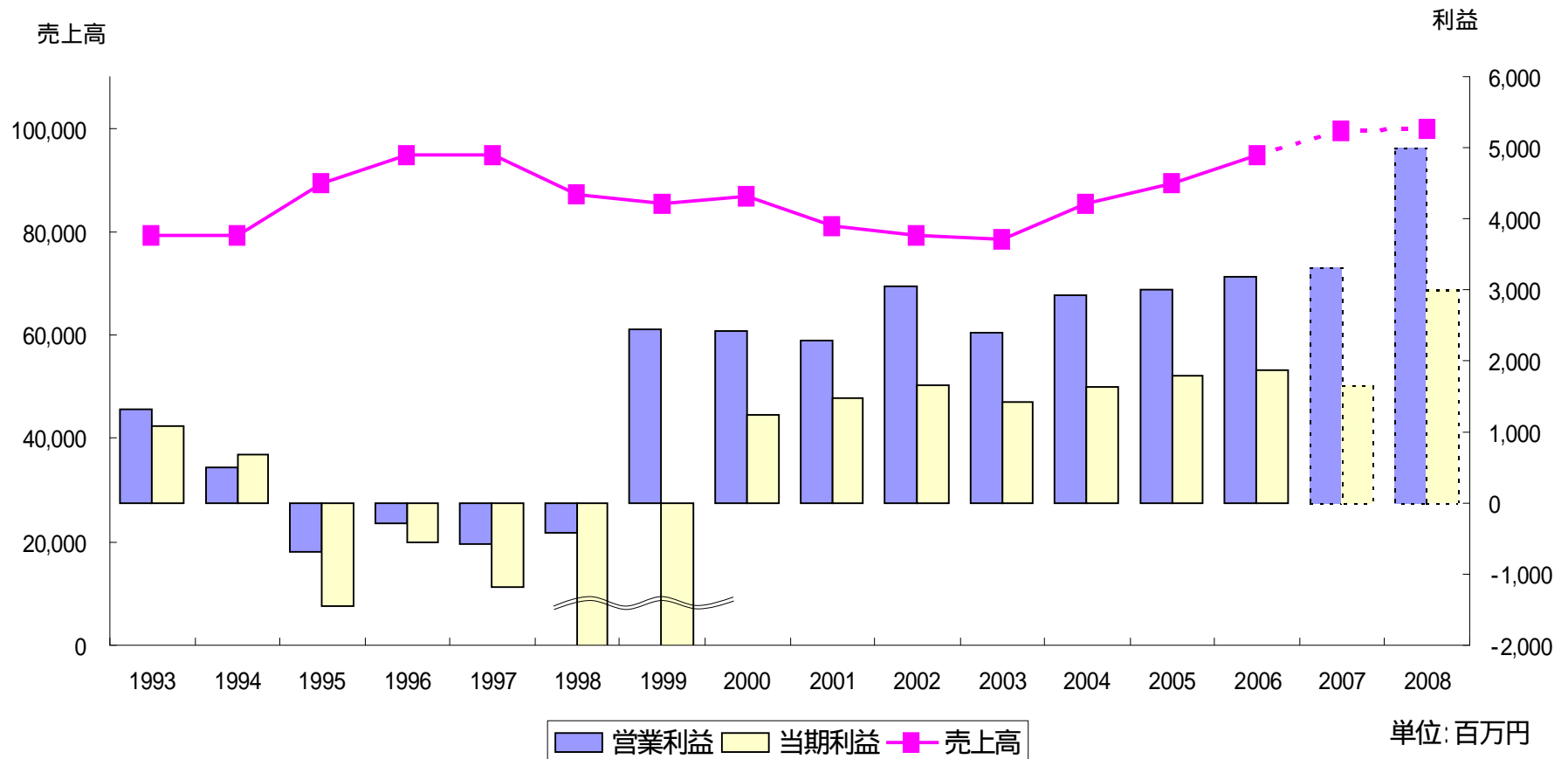


1,701cd/m²

参考資料

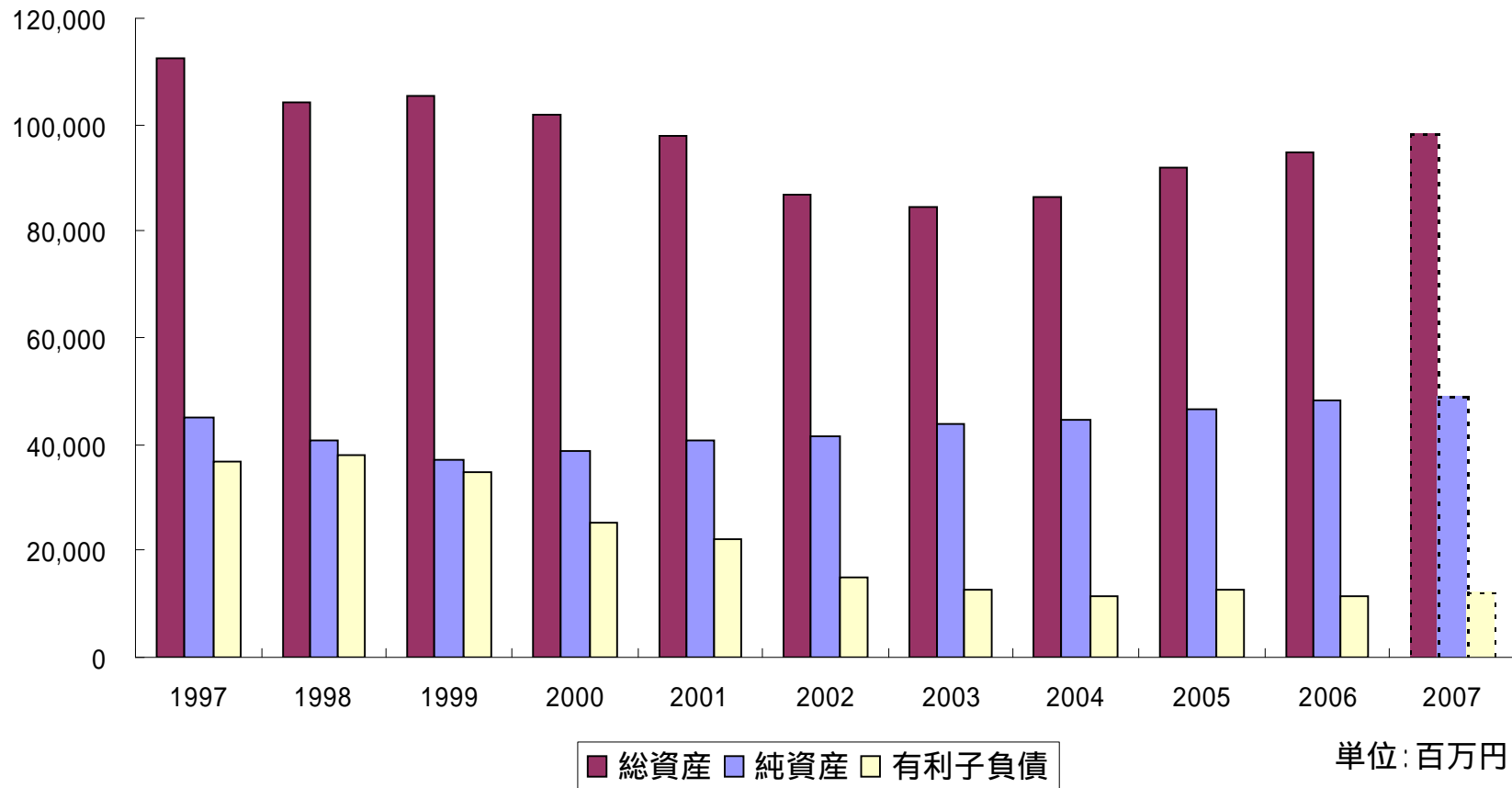


【参考資料】 連結経営成績推移



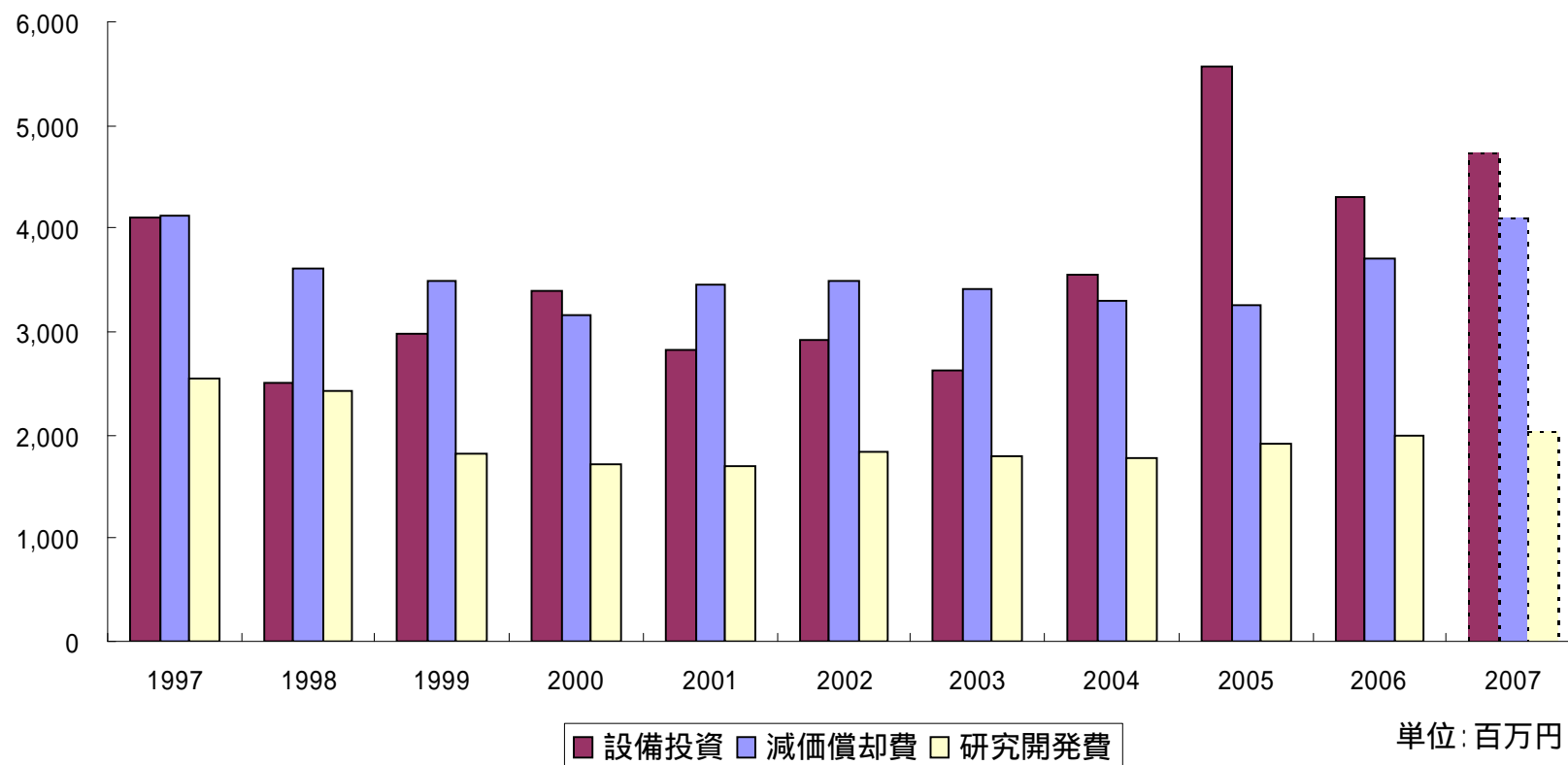
	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
売上高	79,252	79,155	89,501	94,827	94,830	87,244	85,228	86,781	81,020	79,423	78,448	85,244	89,254	94,896	(99,500)	(100,000)
営業利益	1,312	489	-693	-284	-584	-416	2,435	2,431	2,281	3,042	2,401	2,922	2,992	3,174	(3,310)	(5,000)
当期利益	1,086	696	-1,442	-549	-1,174	-4,191	-6,101	1,232	1,477	1,667	1,426	1,634	1,801	1,868	(1,670)	(3,000)

【参考資料】 連結財政状態推移



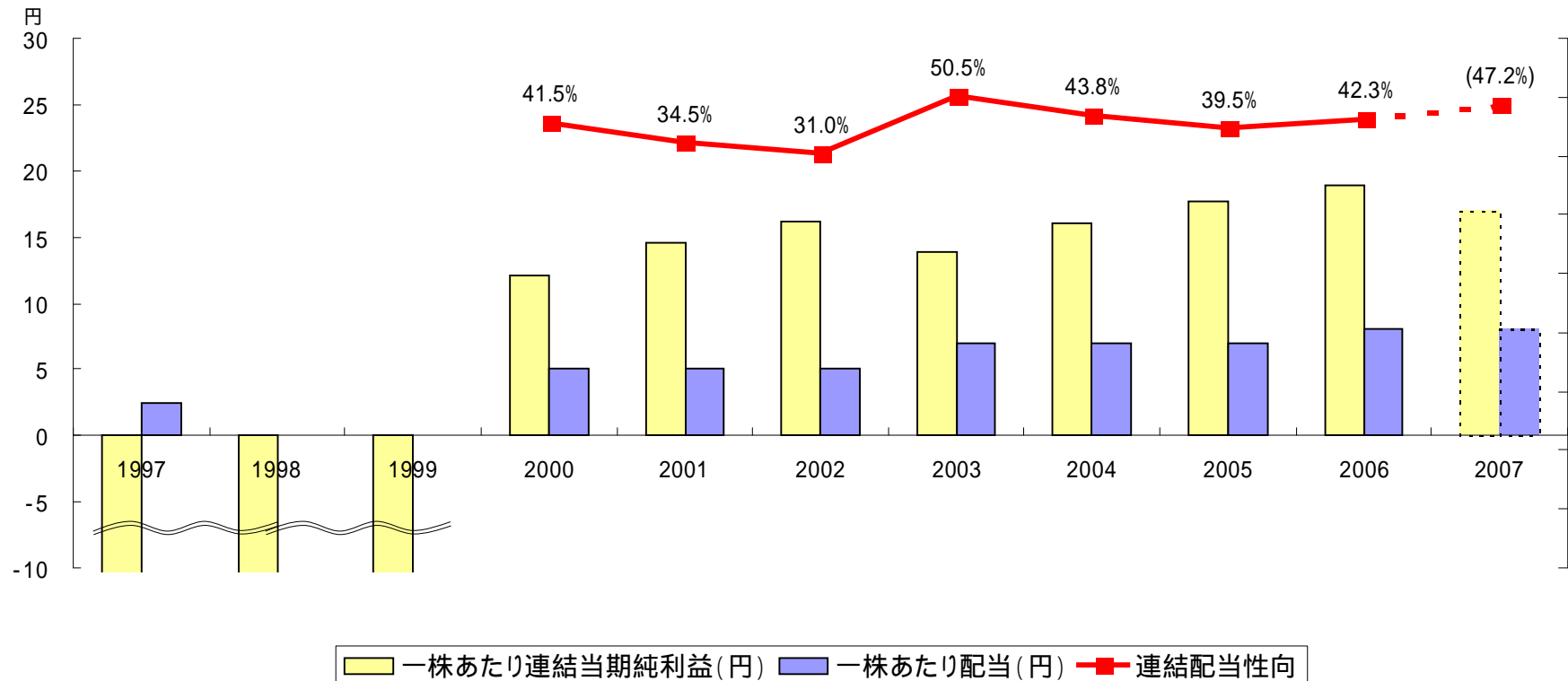
	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
総資産	112,500	104,155	105,558	101,994	97,935	86,963	84,488	86,641	91,900	94,869	(98,300)
純資産	44,975	40,784	36,984	38,572	40,822	41,338	43,742	44,514	46,437	48,186	(48,780)
有利子負債	36,584	37,778	34,616	25,450	22,189	14,974	12,445	11,597	12,441	11,298	(12,165)

【参考資料】 設備投資・減価償却費・研究開発費推移



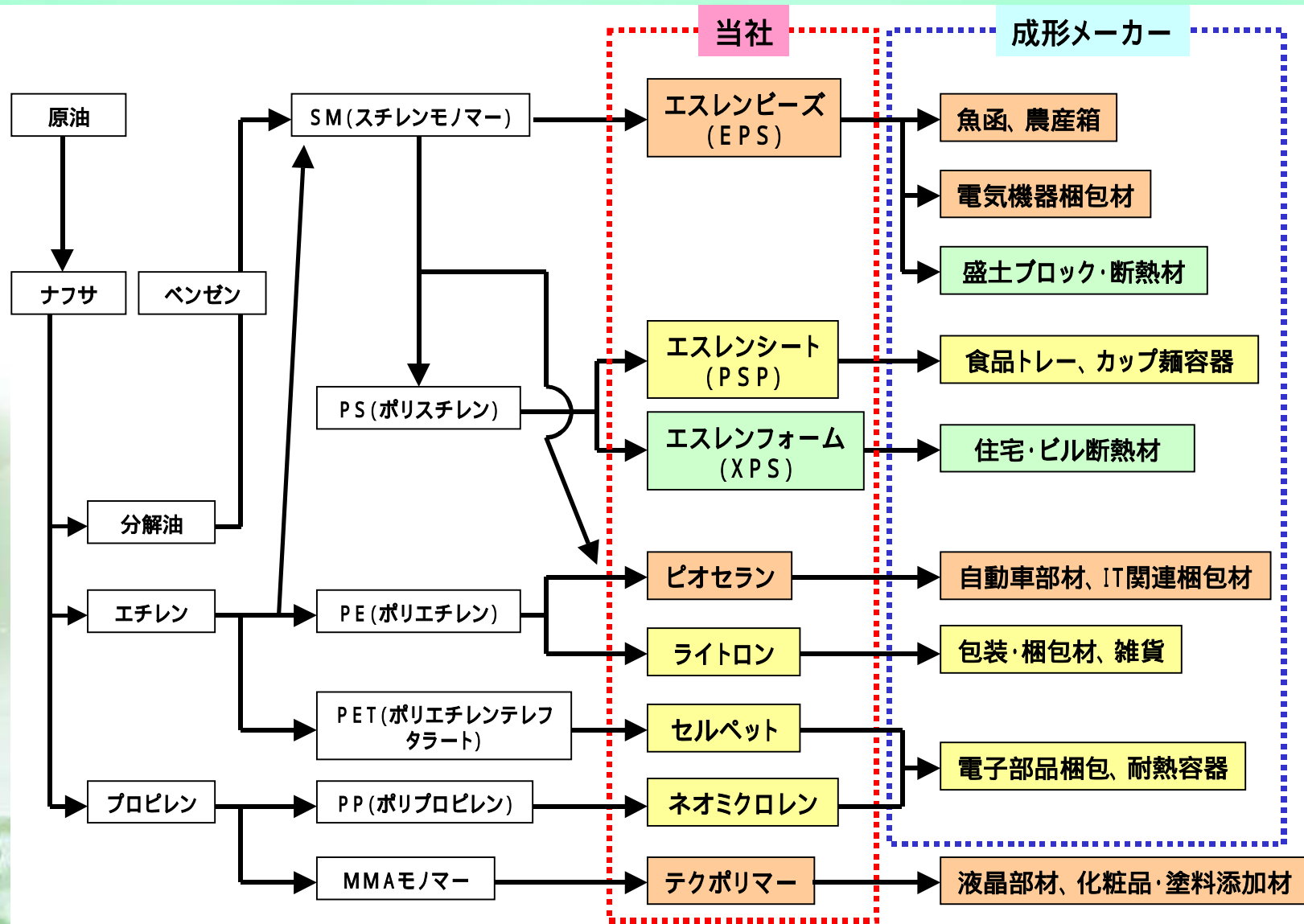
	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
設備投資	4,108	2,505	2,989	3,401	2,828	2,924	2,617	3,551	5,568	4,293	(4,730)
減価償却費	4,128	3,610	3,497	3,161	3,456	3,495	3,422	3,296	3,250	3,720	(4,110)
研究開発費	2,537	2,427	1,810	1,724	1,706	1,827	1,791	1,770	1,914	1,998	(2,040)

【参考資料】 配当金・自己株式取得推移



	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
一株あたり連結当期純利益(円)	-11.46	-40.91	-59.55	12.04	14.49	16.12	13.86	16.00	17.71	18.92	(16.96)
一株あたり配当(円)	2.5	0.0	0.0	5.0	5.0	5.0	7.0	7.0	7.0	8.0	(8.0)
連結配当性向				41.5%	34.5%	31.0%	50.5%	43.8%	39.5%	42.3%	(47.2%)
配当金総額(百万円)	256	0	0	511	509	509	706	701	694	789	
自己株式取得金額(百万円)	0	0	0	90	0	0	237	323	443	198	

【参考資料】 当社の主要製品と用途



内容に関するお問合せは...

経営企画部(IR) (03)3347-9618 までお願いいたします。

当社のホームページもあわせてご覧ください。

アドレスは <http://www.sekisuiplastics.co.jp/>

本資料に記載されている見込、計画、見通しなど将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

